

きよなん 議会だより



令和2年2月5日
第133号

〒299-2192
千葉県安房郡鋸南町下佐久間3458
TEL0470-55-4804

発行／鋸南町議会
編集／議会広報特別委員会



写真提供 生貝裕二氏

🌻 感謝 🌻

危険を顧みず復興にご尽力いただいているボランティアの皆さん!! その姿に感謝の言葉しかありません。皆さんの活動が町の復旧・復興を大きく支えています。

はやわかり

12月定例会	2
4議員が町政を問う	5
決算審査特別委員会	10
2019を振り返って	12

12月 定例議会

災害関連大型補正 35億9千万円 補正後の総額 過去最大 97億5千万円

12月定例議会は、会期を12月10日から13日までの4日間として開催した。議会初日の10日は、小藤田一幸、笹生あすか、竹田和明、早川正也の4議員による一般質問が行われた。翌2日目は、議案の審議と条例関係議案の採決、13日最終日は、5つの会計補正予算の質疑、討論及び採決を行い、併せて9月議会で閉会中の継続審査となった平成30年度決算審査について、委員長報告の後、討論、採決を行い、原案通り認定し、閉会した。

町提出議案は23件で、町税等の減免条例と一般会計補正予算に係る専決処分が2件、条例関係では制定2件と一部改正が14件、令和元年度一般、国保・介護の各補正予算及び病院、水道事業会計の補正予算の全議案を全員賛成で可決した。

専決処分

◆令和元年台風第15号による災害被害者に対する町税等の減額又は免除の特例に関する条例

台風15号の被災者に対し、令和元年度分の町民税、固定資産税、国民健康保険料、介護保険料について減免措置が設けられた。発災日にかかのぼり適用するため、専決処分されたもの。

◆令和元年度鋸南町一般会計補正予算(第6号)

歳入歳出ともに10億9001万3千円を追加し、総額を61億5969万円とした。一部損壊住宅等への修

繕支援10億7200万円をはじめ、災害対応のため緊急を要する予算について専決処分が行われた。

条例関係

◆会計年度任用職員制度改正(11件)

令和2年4月1日から、特別職及び一般職非常勤職員の任用や給付について取扱いが一新されることから関連条例の制定や一部改正がなされた。

特別非常勤職員関係では、地方公務員法改正に伴い職名、区分、報酬及び旅費の

額の整理。

また、各部署で雇用される一般職非常勤職員いわゆる臨時職員は、会計年度任用職員と名称が変更となり常勤職員相当の待遇に改められる。

質疑

問 フルタイムの非常勤職員に適用する給料表中、最低額を時間給に換算すると千葉県最低賃金を下回るが、法的に問題はないのか。

答 当該給料表は、国の給料表を参考として作成されています。都道府県により最低賃金は異なりますので、千葉県の最低賃金を下回らない部分を適用することに

なります。

◆一般職及び特別職職員関係条例の一部改正(3件)

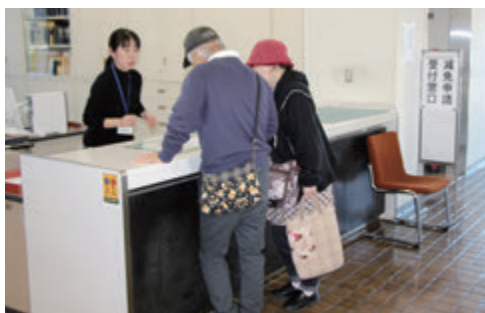
千葉県人事委員会勧告に基づき給与等の改正。

◆監査委員に関する条例の一部改正

地方自治法の改正に伴い監査委員の権限強化、監査基準作成の義務付け等の改正を行った。

◆鋸南町水道事業給水条例の一部改正

水道法の改正により指定給水装置工事事業者は、5年毎に業者指定の更新を行うよう義務付けられたことから、更新に係る手数料が新たに定められた。



減免申請窓口 (税務住民課)

一般会計補正予算 34億円超の災害関連 事業費を計上 過去最大の予算規模に

一般会計補正予算（第7号）は、歳出では34億円を超える災害関連予算を含む35億9334万9千円を追加したことから、歳入歳出総額を97億5303万9千円とし、統合中学校建設のため、89億7千万円余が計上された平成6年度予算を上回る過去最高の予算額となった。

災害関連の歳出

今補正中、直接的な災害関連支出として計上された主なものは、議会・総務費関係では、施設・機器復旧に1021万6千円。

衛生費関係では、災害廃棄物処理委託11億181万2千円、損壊家屋撤去業務

委託11億5251万8千円、倒壊家屋費用償還金1984万5千円。

農林水産業費に農業施設被害に対する支援として7億2500万円。

土木費に町営住宅倉庫撤去費として352万円。

教育費に海洋センター復旧工事費3429万8千円。

災害復旧費関係では、道路、河川、農地及び農業用施設、漁港、林道等の復旧工事費として合わせて2億6130万円。

また、小中学校、岩井袋野球場、庁舎、消防団詰所等の共用施設の復旧費として合計1億2095万2千円が計上された。

災害以外では、千葉県人事委員会勧告及び人事異動に係る人件費を各費目にお

いて増減。新規事業としては、民間事業者が城西大セミナーハウス跡地を再利用して行う地域経済循環創造事業（国が全額補助）に5000万円が計上された。

膨大な歳出に対する財源は、特別交付税、交付金補助金、有利な地方債（借金）等で賄われるが、それでも不足する財源については、町の貯金である財政調整基金が充てられた。

災害関連の歳入

地方交付税（特別交付税）として、災害廃棄物処理、損壊家屋撤去に係る費用から国補助を控除した額の80%として9億966万9千円。

国庫負担金関係では、公共土木、漁港施設復旧に事業費の66・7%の1億1572万4千円、学校施設の復旧費用の50%の2160万3千円。

国庫補助金関係では、災

害廃棄物処理、農地及び農業用施設、林道施設等に対し11億8563万5千円。

県支出金では、農業施設被害の支援事業の交付金5億6552万8千円。

町債（借金）関係では、補助対象となる災害事業で9470万円、対象とならない災害事業に1億6060万円、災害廃棄物処理と損壊家屋撤去事業で2億6900万円。災害に係る町債は後年度、高い算入率で交付税に反映され、多くの部分が相殺される。

災害廃棄物処理と損壊家屋撤去事業を例にとると、26億9千万円強の事業費も町の実質負担額は、6000万円程度の負担で済む見込み。

最終的な財源不足を補う財政調整基金（貯金）は、1億1029万6千円が取り崩され、被災後4回の補正により、年度当初12億8804万6千円の基金現在高は、4億9000万円強となった。

各会計における補正の状況

	補正前の額	補正額	補正後の額
一般会計	61億5969万円	35億9334万9千円	97億5303万9千円
国民健康保険特別会計	11億5769万8千円	22万9千円	11億5792万7千円
介護保険特別会計	13億0621万5千円	1億0680万5千円	14億1302万円
鋸南病院事業会計（資本的収支）	1311万5千円	280万円	1591万5千円
水道事業会計（収益的収支）	4億8787万7千円	△ 359万9千円	4億8427万8千円

一般会計の 主な質疑

問 豊かなまちづくり寄付金7464万円のうち2627万2千円が基金に積み立てられるが、差額の使途は。

答 被災当初、災害寄付の事務を辰野町が代行してくれました。その分が約4500万円。その後、町が受け付けた分が約600万円で、計5100万円ほどは基金に積み立てずに一般財源として使用します。

問 使用用途については、支援者の皆さんに、災害関係のどのような事業に活用したか、明らかにしていきたいと考えています。

答 災害義援金の支給方法は、どのようになるのか。

答 寄付金と同様に町への義援金も12月9日までに、7100万円を超える額が寄せられています。

また、千葉県にも義援金が寄せられており、県では配分委員会で、各市町村の

被害状況に応じた配分が検討されていますので、その分と合わせて被災者に配分することになります。

町では、12月19日に災害義援金配分委員会を開催し、配分方法等を決定する予定ですので、年明けには、被災者からの申請の受付を開始し、2月には第1次の配分をしたいと考えています。

なお、千葉県の配分委員会は11月20日に開催されており、町は、千葉県へ12月11日に被害状況の報告とともに申請をしました。

問 損壊家屋撤去事業委託11億5251万8千円の対象家屋について問う。

答 事業費のほとんどが国から支援を受けるもので、半壊以上の住家を対象としています。業務内容の細部については、近隣市と協議をしているところで、終了後、速やかに広報し、実施していきます。

問 半壊以上の住家が対象との答弁だが、事業概要では、生活環境保全上の支障

を除去することを目的として、台風により半壊以上の被害を受けた「家屋等」について、申請により町が撤去及び処分を実施するときに、住家以外の倉庫や非住家の建物についても対象にするということは難しいのか。弾力的に運用できるものであれば近隣市との協議の中で前向きに検討してもらいたい。

答 協議では、住家に付帯する設備への適用に関して、制度との整合性の検討がされているところです。

問 第1及び第2分団詰所復旧工事に関して、今後の強風の影響が心配であるが、修理の際、屋根材は何を使用するのか。

また、災害保険の適用になつていと思うが、どの程度の補填を見込んでいるのか。

答 現に使用されている瓦は風に弱く、何度か被災していますので、瓦からスレートに替えて復旧したいと考えています。

町が加入する建物共済では、風水害については基本50%が補填されますが、築年数等で若干変わってくるということです。

病院事業会計の 主な質疑

問 医療機器整備費280万円で購入する、自動視野計の購入の経緯は。

答 平成15年から使用しており、耐用年数が経過し、今年8月末に故障、部品の調達ができないことから、購入するものです。現在は診療に支障をきたさぬよう、メーカーからのレンタルで対応しています。

問 高額な機器である。どのような治療に利用するのか、また利用頻度を上げる方策を考えているか。

答 高齢者の多い当町では、緑内障等の病気を早期発見するためにはならない機器となります。

眼科は、週1回の診療を行っており、医師も派遣で

お願いしてはいますが、多くの方にご利用いただけるよう機械の有用性を広報していきたいと考えています。

一般会計補正予算（第4号～7号）

	補正した額	補正後の額	主な補正の内容
第4号（専決）	4億9598万2千円	45億2570万9千円	災害廃棄物処理、復旧工事設計測量
第5号	5億4396万8千円	50億6967万7千円	住宅応急修理、公共施設復旧工事
第6号（専決）	10億9001万3千円	61億5969万円	住宅応急修理、被災住宅修繕
第7号	35億9334万9千円	97億5303万9千円	損壊家屋撤去、道路災害復旧

ここが
聞きたい

いっぱん質問

● 4議員が町政を問う ●



笹生あすか 議員

- ・町の情報発信・伝達について
- ・災害時の避難について



小藤田一幸 議員

- ・町の農業政策と台風対策について



早川 正也 議員

- ・台風15号等それに続く豪雨災害について



竹田 和明 議員

- ・老人福祉センターに支所機能を持たせることについて

一般質問とは、議員が本会議場で町長・教育長に対し施政方針や事務の執行状況を聞き、疑問点をたずめるものです。紙面の都合上概要を掲載しています。



小藤田一幸
議員

問

集落営農の支援方法は

答

委員と検討しながら進めていきたい

問 町の農業にとって一番

恐れているのが人口減少である。80人前後あった成人式の人数が、今年の幼稚園入園者は半分以下の26人で、この傾向は今後も続く。

政府統計による25年後の町の人口予想3400人が次第に現実味をおびてきている。

平成27年、今後の町の行政指針を作る会議で、大学教授から、広島県のある集落で、トラクターや田植え機等を各戸で持つのをやめて3人のオペレーターに耕地の管理を委託する集落営農の実践を初めて聞いた。

現在、佐久間地区活性化

協議会でもこの集落営農の推進に取り組んでおり、非常に期待している。

協議会は、平成28年から5年間で、国から約2000万円の補助を受け地域活性化事業を実施している。主要な事業の1つである佐久間地区の集落営農はどこまで進んでいるのか。

答 具体的には組織が立ち上がる前の段階で、小さい単位の中で話し合いを持っている状態です。

問 取り組み3年目の平成30年2月、笑楽の湯で滋賀県の集落営農家を招いての

講演会があった。

おそろいの法被を着てのメンバーの一人が、地域では高齢化や後継者不足など問題が多い、どう取り組んだら良いか。という問いに「まず始めてみるからだ」という答えが印象に残っている。

その時、副町長が会長として挨拶をしたが、会長となった経緯は。

答 委員の中での互選で決まりました。今年から地域の方が会長をしています。

問 事業はあと1年で終わる。これまで長野県をはじめ山口県など多くの地域を

視察し、平成31年1月

には2回目の島根県訪問を、それなりの人数で行った。

今後どのように活動を支援していくのか。

答 5年間で必ず成果をとるという制約はありません。今後も皆さんと検討しながら進めて行きたいと考えています。

問 台風で共同農業施設にも甚大な被害が出た。修理に町独自の補助を出す考えはないか。

答 国や県の支援を中心に考えています。



台風15号で被害を受けたビニールハウス



笹生あすか 議員

問

情報発信力向上に努めるべきでは

答

役割の大きさを認識 検討したい

問 台風15号発災以後、情報の取得や発信が困難な状態にあり、ツイッターで鋸南町の現状を発信すると、大きな反響があった。町は情報発信力を高める必要があると考えるがどうか。

答 ツイッターによる情報の拡散が、全国からの物資、支援を受けるうえで大きな効果を果たしたと考えます。非常時で人員不足のなか、他の業務との兼ね合い、適切なクレーム対応ができるかなどの検討をしたうえで、導入を進めていきます。

問 SNSは有効であるので、防災安心メールの登録やSNSでの情報収集や発信ができる環境を町民自らが整えて欲しいと思います。講習会の開催に向けて検討を進めたいと思います。

答 SNSは有効であるのも、要支援者の方々への対応として、必要な対応を講じられるよう、環境整備を進めていきます。町としての初動避難の対処の考え方は、原則、避難されてきた方をすべて避難所に収容することを最優先事項として考えています。

問 保育所、幼稚園、小学校の児童生徒への対応はどうか。

答 教育委員会を中心に学校間で情報を共有し、対応策についても協議する体制が構築されています。保護者との情報伝達を迅速かつ

問 鋸南町の公式ツイッターを開設する予定はあるか。

答 ツイッターによる情報の拡散が、全国からの物資、支援を受けるうえで大きな効果を果たしたと考えます。非常時で人員不足のなか、他の業務との兼ね合い、適切なクレーム対応ができるかなどの検討をしたうえで、導入を進めていきます。

問 福祉避難所やペット同行避難所などの対応を強化する必要があると考えますがどうか。

答 福祉避難所については、発災時、町内の民間施設が受け入れを行いました。また、一般の避難所においても、要支援者の方々への対応として、必要な対応を講じられるよう、環境整備を進めていきます。町としての初動避難の対処の考え方は、原則、避難されてきた方をすべて避難所に収容することを最優先事項として考えています。

問 保育所、幼稚園、小学校の児童生徒への対応はどうか。

答 教育委員会を中心に学校間で情報を共有し、対応策についても協議する体制が構築されています。保護者との情報伝達を迅速かつ

問 防災無線、車両広報、防災安心メール、災害掲示板の設置などの手段を用いました。ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス（SNS）が災害時の情報発信力を高める有効な手段であるか。

問 今後、「SNS講習会」などを開催することは考えているか。

問 福祉避難所やペット同行避難所などの対応を強化する必要があると考えますがどうか。

答 福祉避難所については、発災時、町内の民間施設が受け入れを行いました。また、一般の避難所においても、要支援者の方々への対応として、必要な対応を講じられるよう、環境整備を進めていきます。町としての初動避難の対処の考え方は、原則、避難されてきた方をすべて避難所に収容することを最優先事項として考えています。

問 保育所、幼稚園、小学校の児童生徒への対応はどうか。

答 教育委員会を中心に学校間で情報を共有し、対応策についても協議する体制が構築されています。保護者との情報伝達を迅速かつ

問 防災無線、車両広報、防災安心メール、災害掲示板の設置などの手段を用いました。ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス（SNS）が災害時の情報発信力を高める有効な手段であるか。

問 今後、「SNS講習会」などを開催することは考えているか。

問 福祉避難所やペット同行避難所などの対応を強化する必要があると考えますがどうか。

答 福祉避難所については、発災時、町内の民間施設が受け入れを行いました。また、一般の避難所においても、要支援者の方々への対応として、必要な対応を講じられるよう、環境整備を進めていきます。町としての初動避難の対処の考え方は、原則、避難されてきた方をすべて避難所に収容することを最優先事項として考えています。

問 保育所、幼稚園、小学校の児童生徒への対応はどうか。

答 教育委員会を中心に学校間で情報を共有し、対応策についても協議する体制が構築されています。保護者との情報伝達を迅速かつ

問 防災無線、車両広報、防災安心メール、災害掲示板の設置などの手段を用いました。ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス（SNS）が災害時の情報発信力を高める有効な手段であるか。

問 今後、「SNS講習会」などを開催することは考えているか。

問 福祉避難所やペット同行避難所などの対応を強化する必要があると考えますがどうか。

答 福祉避難所については、発災時、町内の民間施設が受け入れを行いました。また、一般の避難所においても、要支援者の方々への対応として、必要な対応を講じられるよう、環境整備を進めていきます。町としての初動避難の対処の考え方は、原則、避難されてきた方をすべて避難所に収容することを最優先事項として考えています。

問 保育所、幼稚園、小学校の児童生徒への対応はどうか。

答 教育委員会を中心に学校間で情報を共有し、対応策についても協議する体制が構築されています。保護者との情報伝達を迅速かつ



竹田 和明 議員

問

老人福祉センターに支所機能を

答

旧佐久間小利用を含め検討したい

問 災害時、本町の職員は少数で多くの業務に当たることになるが、業務の中断は場合によっては人命にも関わる。

それゆえ「防災」だけでなく、非常時にいかにして行政の業務を継続するかという事前の計画（「業務継続計画」という）が必要であり、特に庁舎の代替施設の確保は重要だ。

現在、行政機能は勝山及び保田地区に集中しているが、これらの地区は町のハザードマップの危険エリア内にあり、業務継続という点で脆弱だ。その点、佐久

間地区は過去の大震災の記録からも、災害に強い安全な地区と言える。

そこで、今回の災害において、避難所として利用した老人福祉センターを非常時の代替施設と捉え、あらかじめ同センターに支所機能を持たせ（「支所化」という）てはどうか。

さらに、同センターは旧佐久間小学校跡地に隣接しているの、これらを一体として再開発してはどうか。

具体的には、旧佐久間小学校跡地から同センターにかけてのエリアを町の災害対策拠点と位置づけ、支所

や避難所などの施設を整備、建設するというもので、これが実現すれば、災害発生時には本庁舎の代替施設としての利用や、被災市民の生活保障が可能になる。

答 今回の台風災害では、リスク分散の必要性を再認識しました。

また業務継続計画は重要であり、すでに平成30年度末から作成に着手しています。

老人福祉センターと旧佐久間小学校跡地を一体として町の防災拠点とする提案は大変参考になります。同センターの支所化について

は、その全体構想の中で検討します。

問 これまで本町の町づくりは、集約化による全体コストの削減という方針で進めてきた。だが、高齢化に伴いその見直しが必要ではないか。

町中心から離れた地区住民のニーズは、もう少し身近な場所に行行政サービス拠点が再配置されることではないか。

答 地方創生においても「小さな拠点作り」が提唱されており、確かにそのような考え方もあります。

一方で町自体の財政を健全に維持運営していくということも求められていますので、多面的検証が必要と考えます。



支所化を望む老人福祉センター



早川 正也 議員

問

町道の管理体制強化を

答

今後適切な維持管理を行う

問 台風15号及び同19号、その後の豪雨で被害を受けた公共土木施設や町道の現状はどうか。

答 台風15号は、24時間降水量211mmの豪雨、最大瞬間風速48・8mの暴風をもたらし、町道100箇所以上が被害を受けました。

現在、山間部の町道13箇所と町管理河川2箇所が復旧されていません。13箇所以外は、通行可能な状態には復旧されています。

問 町道には、重要路線に指定されているものがあるが、その被害状況は。

答 1級町道が7路線、2

級町道は8路線あり、一連の災害により、1級町道で1路線1箇所、2級町道では、3路線6箇所が被災しました。

問 災害等で国道127号線が通行止めとなった場合の迂回路となる重要路線の被害状況は。

答 2級町道21205号線、通称川箆線が崩落し、一部通行止めになっており、災害復旧工事により復旧する予定です。平成25年の豪雨でも同様に崩落したので、現場の状況を十分考慮し、復旧方法も再検討し、1日も早い復旧に努めます。

問 町道の管理体制を見直す必要があると思うが。

答 現在、職員2名を専任で配置し、危険箇所の早期発見、早急な対応に努めています。町独自の管理基準はありませんが、国道、県道の基準を参考に日常点検等を行っています。定期点検や地域との連絡を密にし、適切な維持管理を行っていきます。

問 道路長寿命化修繕事業の進捗状況はどうか。

答 平成26年から長寿命化計画に基づき修繕を行っています。昨年度までに5つの全トンネルの修繕が完了。

橋梁については、修繕予定の8橋のうち5橋が終了。今年度、残り3橋を実施予定です。

問 今回の災害では、通行止めによる集落の孤立は、町と行政区との協力で早期に解消できたが、今後に備えて、防止策等検討しているか。

答 日頃から、通行不能が想定される箇所の特定と点検、その対処方法が必要と考えますので、検討します。

要望 電気、電話、水道等のライフラインは、道路沿いに敷設されて

いるものが多い。道路維持の重要性を認識し町道の管理基準がないのであれば、今後明確にし、災害に強い町を目指してもらいたい。



1日も早い復旧が望まれる川箆線

査特別委員会報告

平成30年度の各会計決算は、11月22日に議会選出の監査委員を除く議員全員で構成する決算審査特別委員会（鈴木辰也委員長）で審査された。

一般会計については、歳入総額は44億1462万6千円で前年度比3・3%の増であった。歳出総額は42億5427万8千円で前年度比5・2%の増となった。町税収納率は95・5%となり、前年度より0・6%の増となった。

また、特別会計、企業会計についても審査を行い、採決を行った結果、平成30年度決算については全員賛成で認定すべきものと決定した。

決算に関する

主な質疑

〔総務企画課〕

問 平成30年度も行政改革に取り組んだと思うが、その成果は。

答 基本方針にある取り組みとしては、人件費関係では管理職手当の定額化。

施設運営関係では、契約電力会社の再入札を行うとともに器具等のLED化を進め、休止施設の警備委託の廃止等を行いました。

施設の有効利用としては、旧佐久間小学校の管理棟を解体しBBQハウスを建設、運営を開始した他、笑楽の湯にエレベーターを設置、濾過装

置も整備し、業務の効率化と利便性の向上を図りました。

また引き続き実施したものと

として、特別職及び管理職の人件費削減、有利な地方債への借換えによる公債費の抑制、道路橋梁や水産関係施設の計画的な長寿命化によるコストの平準化等を図りました。

歳入面では、遊休施設の貸し付け等を行い、収入確保を図りました。経常経費については、来年度の予算編成で更に厳しく見直していきたいと考えています。

問 防災行政無線保守点検には、倒壊した親局の支柱も含まれるのか。

答 含まれており、年2回保守点検を行っていました。アナログ柱のため交換予定でし

たが、今後は低くするなど検討の必要があります。

〔保健福祉課〕

問 老人センターの利用者が増加しているが、駐車場は足りているのか。また、貸切風呂等の施設ができたが、今後、佐久間地区の拠点として整備にどのような考えを持っているか。

答 笑楽の湯の駐車場は、多いときには200人強が利用し、旧佐久間小を利用してもらうこともあるので、駐車場整備を検討しなければならぬと考えています。拠点としての整備については、旧佐久間小と合わせて或いは独自で行う2つの方法があり、今後の検討課題です。

一般会計決算状況

項目	平成30年度	平成29年度
歳入総額	44億1462万6千円	42億7505万9千円
歳出総額	42億5427万8千円	40億4350万9千円
差引	1億6034万8千円	2億3155万円

平成30年度決算審

【地域振興課】

問 現在、出会い応援サポーターは4名だが、今後も4名体制なのか。

答 要綱上、定員は8名です。町報等で募集をしています。定数に達しない状況です。多いほど成果が期待できますので、定員に達するよう努めたいと思います。

要望 出会いの場を作り、交流の場を広げ、実績をあげることで少子化社会に歯止めをかけてもらいたい。

【建設水道課】

問 転入者でリフォーム補助金を利用した者がいるか。空き家解消対策・転出防止対策となるので、利用促進を図るために周知をすべきと考えるが。

答 昨年度、活用された36件はすべて町内居住者でした。転入者の利用がありませんでしたが、転入する方への補助金利用を勧奨する広報を行っており、今後も続けていきます。

【教育課】

問 教育関係施設の土地借上料が、かなりの額になっているが、行政財産として購入すべきではないか。

答 既存の施設については、やむを得ぬ経緯から借り上げをしています。道の駅保田小学校をはじめ、新たな事業については、購入することを基本に実施していきます。

要望 長年、借りてきたものを買収するのは難しいとは思いますが、効率化を視野に入れた財政運営を願いたい。

【鋸南病院事業】

問 監査意見書で「鋸南病院を指定管理させている医療法人財団ささらぎ会については、医業収益が減少する一方で、人件費等が増加したため経営状況が悪化し、令和元年決算の更なる悪化が懸念される」との指摘を受けているが、どのような改善努力がなされているのか。

答 30年度は、年間の稼働病床率の悪化により、3階の療

養型病床を閉鎖し、2階に集約する形で経営しています。

常勤正看護師2名の自己退職に加え、非常勤職員に退職を依頼し、町からの補助金が増額されたため、改善されています。また、医師2名、自治医大からの派遣2名の4名で運営していますが、令和2年度は自治医大1名とする等、経費節減及び人件費削減を図るとのことです。

問 鋸南病院の経営が悪化している現状から、町は病院を将来的にどのようにすべきと考えているか。

答 療養型病床を再稼働することが理想ですが、当面は2階一般病棟の健全運営に努め、経営の改善を図ることになります。この地域に有床施設は必要との考えから、一般病棟を堅持し、仮に縮小の形でも有床診療所として存続させなければならぬと考えていますので、厳しい病院経営をどう改善していくか財団と十分協議し、町民から信頼されるよう改善に取り組んでいきます。

平成30年度特別会計及び企業会計決算状況

会計名	歳入	歳出
国民健康保険特別会計	12億4835万4千円	11億9439万4千円
後期高齢者医療特別会計	1億2929万1千円	1億2674万7千円
介護保険特別会計	13億8556万円	13億3370万6千円
病院事業会計(収益的収支)	8441万7千円	1億1113万9千円
水道事業会計(収益的収支)	5億2815万9千円	4億5962万1千円

2019を振り返って

- 4月 鋸南町議会議員選挙 平成23年以来の無投票
新人4名が当選
- 5月 初議会 鋸南町議会初の女性議長誕生
- 6月 議員1名欠員 議員数11名
議会広報特別委員会を設置
- 8月 臨時議会（広域廃棄物処理事業）
- 9月 台風15号で議場被災
- 10月 臨時議会（災害関係補正予算）

議会の日誌

令和元年

- 11月22日 決算審査特別委員会
- 11月25日 議員全員協議会
- 12月3日 議会運営委員会
- 12月10日～13日
令和元年第8回議会定例会

令和2年

- 1月7日 議会運営委員会
- 1月10日 令和2年第1回議会臨時会
議会広報特別委員会
- 1月22日 議会広報特別委員会協議会

ご報告

台風15号に係る災害見舞金が全国町村議会議長会をはじめ、13の都・県議長会から千葉県町村議会議長会に寄せられ、県議長会定例会において決定を受けた鋸南町の分配額93万7千円を12月6日に鋸南町災害義援金口座に入金しました。

編集後記

昨年は台風、豪雨災害があり、その爪痕はまだまだ残っていますが、町内外様々な人の絆で復旧、復興に向かっていきます。

令和2年、十二支の最初の子年になり新しいサイクルが始まり1ヶ月が過ぎ、繁栄の年とされる子年に期待しているところです。

いよいよ東京オリンピックの開催も間近になりました。今年の夏にはたくさんの方の外国人の方も日本を訪れ、鋸南町にも観光客の皆様が来ていただけることを期待しているところです。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックは復興五輪とも言われています。千葉県でもオリンピック競技の「フェンシング・サーフィン・テコンドー・レスリング」の4種、パラリンピック競技の「ゴールボール・シッティングバレー・テコンドー・車いすフェンシング」の4種、計8競技が開催されます。今年の東京オリンピック・パラリンピックを機会にぜひスポーツの楽しさや、人の絆の大切さをもう一度考え直してみたいと思います。これからの鋸南町の色々なところで助け合い、応援している声が聞かえてくるはずですよ。

早川